

平成28年度 日南市立南郷小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン:豊かな心と自ら学び考える力を持ち、たくましく生きる児童の育成

【評価】 4:よい、3:だいたいよい、2:もう少し、1:よくない

教育的課題	重点指導事項	評価項目	4と3の割合(%)				総合(%)	考察及び改善策	学校関係者評価委員の意見
			児童	保護者	地域	職員			
確かな学力	基礎・基本的な力を習得させ、考えを表現する力を育てる。	①子どもたちに、基本的な学力(読み、書き、計算の力)が身に付いている。	85	86	100	68	87	①については、各種学力テストにおいて定着率が上がるように、取組を講じる。 ②については、「思考力」「表現力」を育成し、児童の学力をより一層向上させるために必要な項目である。本年度の実践内容を見直し、児童の考えを文章で表現する力を高めたい。 ③については、参観日や学級通信等の資料を活用し、家庭学習の意義と効果及び保護者との協力の必要性を理解してもらえようように努め、学校と家庭とで力を合わせて教育活動を推進したい。	【①②について】 ○ 校長先生の目標を職員全員が理解し、それに基づく手立てに一丸となって取り組むことが重要である。 【④について】 ○ どの学級も教室設営が工夫されており、環境整備がなされている。子ども達が日々の活動に意欲的に取り組めるようにするためにも重要なので、ぜひ継続してもらいたい。
		②子どもたちは、自分の考えを文章で表現する力が高まっている。	72	64	87	58			
	家庭と協力して教育活動を推進する。	③子どもたちは、家庭での学習習慣が身に付いている。	91	77		72			
	学力を向上させ、個性や能力を伸ばす。	④先生は、子どもたちの学力を伸ばすために努力している。	94	92	100	95			
		⑤先生は、分かりやすい授業にするために工夫している。	97	95	100	79			
		⑥先生は、子どもたちの個性や能力を伸ばそうと努力している。	99	93	100	95			
豊かな心	校内外における基本的な生活習慣を育てる。	⑦子どもたちに、基本的な生活習慣や生活リズムが身に付いている。	85	87	90	50	81	⑦⑧について、職員の評価割合が低いのは、児童がさらによりよい態度を示すことができるとの期待を表したものである。学校での指導はもとより、家庭や少年団等との連携を図りながら、よりよい南郷小の児童育成に努める。 ⑫について児童の評価割合が高いのは、本校行事の「ひびき集会」の成果により、児童が将来への夢や希望を抱いた成果だと考えられる。しかし、保護者等に児童の夢や希望を話すようにするためには、将来の職業観を明確にもたせる必要がある。そこで、社会科などの授業やその他の活動において、職業観を育み、夢や希望を語る機会を設定したい。	【⑦⑧について】 ○ 子どもと教師の評価結果に大きな差があるが、教師の評価も子どもと同じくらいの結果となるように丁寧な指導を行ったり、確実な見届けを行ったりするなどの改善を図る必要がある。 【⑧について】 ○ 朝の立番指導の時は、ユニフォームを着ているためか、子どもたちはきちんとあいさつができる。しかし、下校時に会った時は、友だちと話をしながら歩いている時が多く、進んであいさつすることに意識が向いていないようである。
		⑧子どもたちは、「あいさつをする」「時間を守る」「きまりを守る」ことができる。	90	85	85	55			
	児童を理解し、一人一人を大切に育てる。	⑨ハートフル委員会等で児童理解に努め、生徒指導に関する共通実践に生かしている。				95			
		⑩先生は、子ども一人一人を大切に、子どもに関する相談に適切に応じている。	96	92		90			
	心を耕す活動となるよう、ねらいを踏まえた内容を仕組み、将来の夢や希望を育む。	⑪児童の心を耕す活動となるよう、ねらいを踏まえた内容を仕組み、将来の夢や希望を育む。	90	90		80			
		⑫子どもたちは、将来への夢や希望について話すようになった。	81	64	67	60			
たくましく生きる力	自他の命を守り、交通安全や行動マナーの規範意識を育てる。	⑬子どもたちに、自分の身を守るための判断力や行動の仕方が身に付いている。	90	76	84	60	83	⑬⑭について、児童以外の評価割合が低いのは、児童への生命安全に対する思いの強さの表れであると考えられる。地域の方々や保護者が朝の登校の見守りをしていることに感謝しつつ、教職員も積極的に登下校の見守りを行いたい。また、地震・津波や風水害・不審者等への対応訓練も定期的に行い、児童が自分の判断で自他の命を守ることができるように、判断力等を育てたい。 ⑮においては、困難に立ち向かい、課題を解決する力を育てるべく、学校の教育活動全般をとおして、挑戦する機会を設定する。体力向上の活動はもとより、授業中の問題解決や当番活動等の在り方を協議し、家庭との連携を図りながら実践させたい。	【⑬⑭について】 ○ 登校時に歩道橋の下を通る子どもがいた。また、ポケットに手を入れて登校している子どももいた。危険な場所や行動に気付くことができる子どもにしていく必要がある。
		⑭子どもたちは、事故防止や行動マナーに対する意識の向上が高まっている。	90	78	66	48			
	困難に立ち向かい、課題を解決する力を育てる。	⑮子どもたちに「挑戦する」意識が高まっている。	87	72	100	70			
	体力の向上に努める態度を育て、健康な体を育む意識を育てる。	⑯学校は、子どもの体力を高める取組に努めている。	87	86	100	90			
		⑰子どもたちは、自分の健康に関心をもって生活するようになった。		72	89	85			
		⑱学校は、子どもたちの健康安全に配慮し、保健や給食の面で適切に対応している。		97	100	100			